眼科摘要　九

F B
カ−84

眼科摘要巻之九

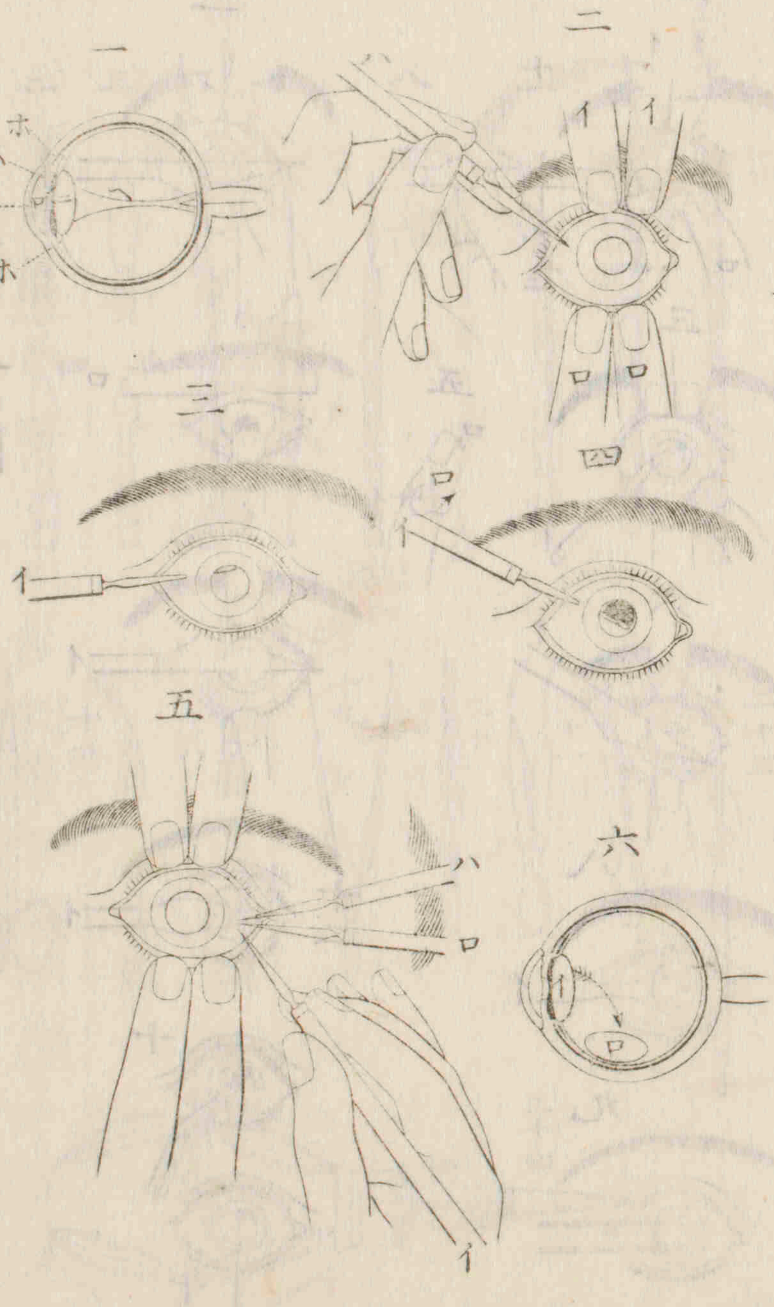
佐倉　佐藤舜海　刪定
　　　倉次元意　譯

本篇原ト手術ヲ載セス。灰白内障翳ノ如キハ。手術ニ非レハ實ニ恢復ニ至ラス。用百氏ノ書ハ。別ニ手術書アリ。擬テ其書ニ就テ。此症ノ手術ヲ補ハント欲スレトモ。如何セン其書圖解ヲ載セス。灰白内障翳ト。假造瞳人トハ。圖解ニ非レハ。其蘊奥ヲ領會スルコ能ハス。是ヲ以テ佛朗西人。瞥児那児度氏ノ著ス所ノ外科術解部

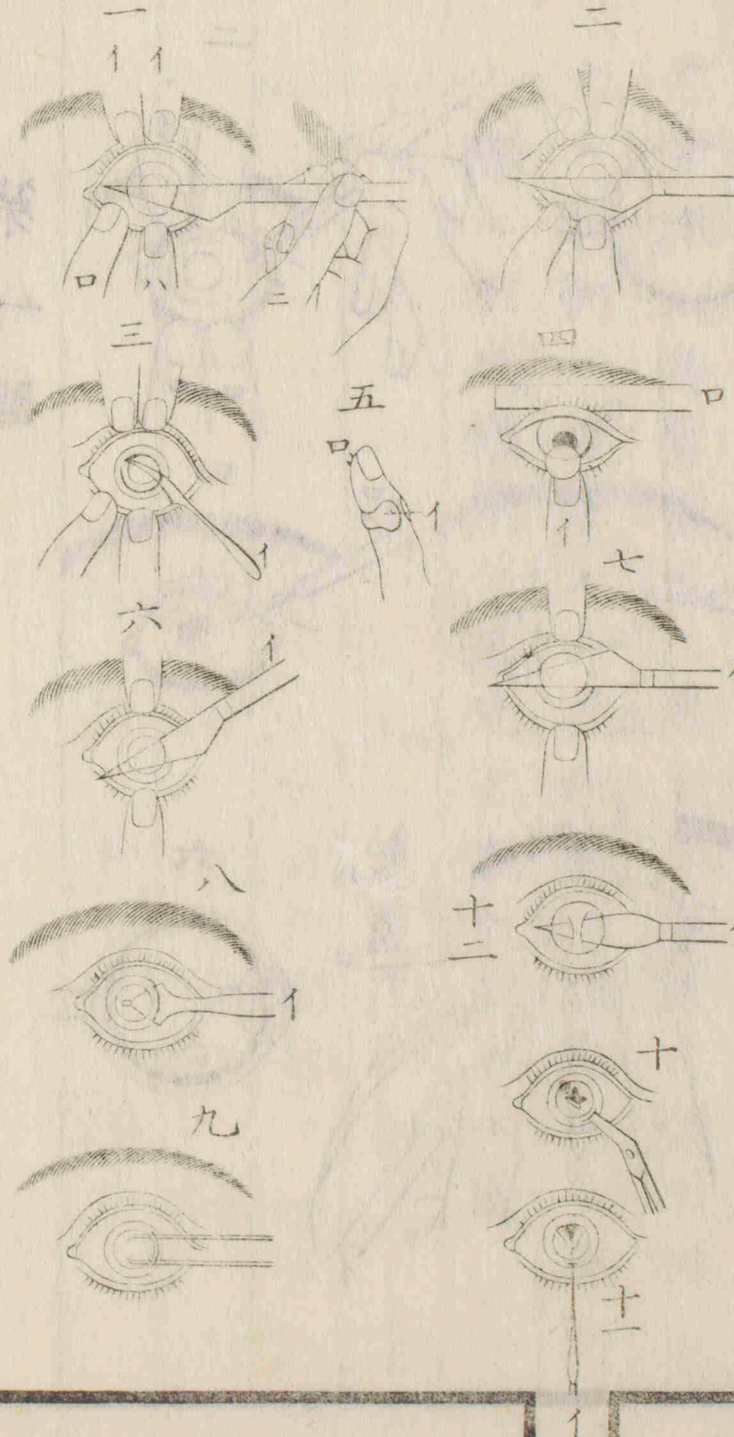
慶應義塾大學醫學部圖書
496.2
Ga-2
8
No. 912
慶應義塾大學醫學部北里圖書
慶應義塾大学医学情報センター
昭和47年7月14日
富士川文庫
3174

書ニ就テ、手術ニ肯綮ナル圖解若干ト、傍ラ假造瞳人圖解トヲ抄譯シ、佐藤君ニ乞テ、其繁冗ヲ沙汰シ、其緊要ヲ収摭シテ、本篇ノ缺ヲ補ントス。此術ニ従事スル者、此篇ヲ服膺セハ、施術ノ際ニ於テ、庶幾ハ過失ナカランコト云爾。

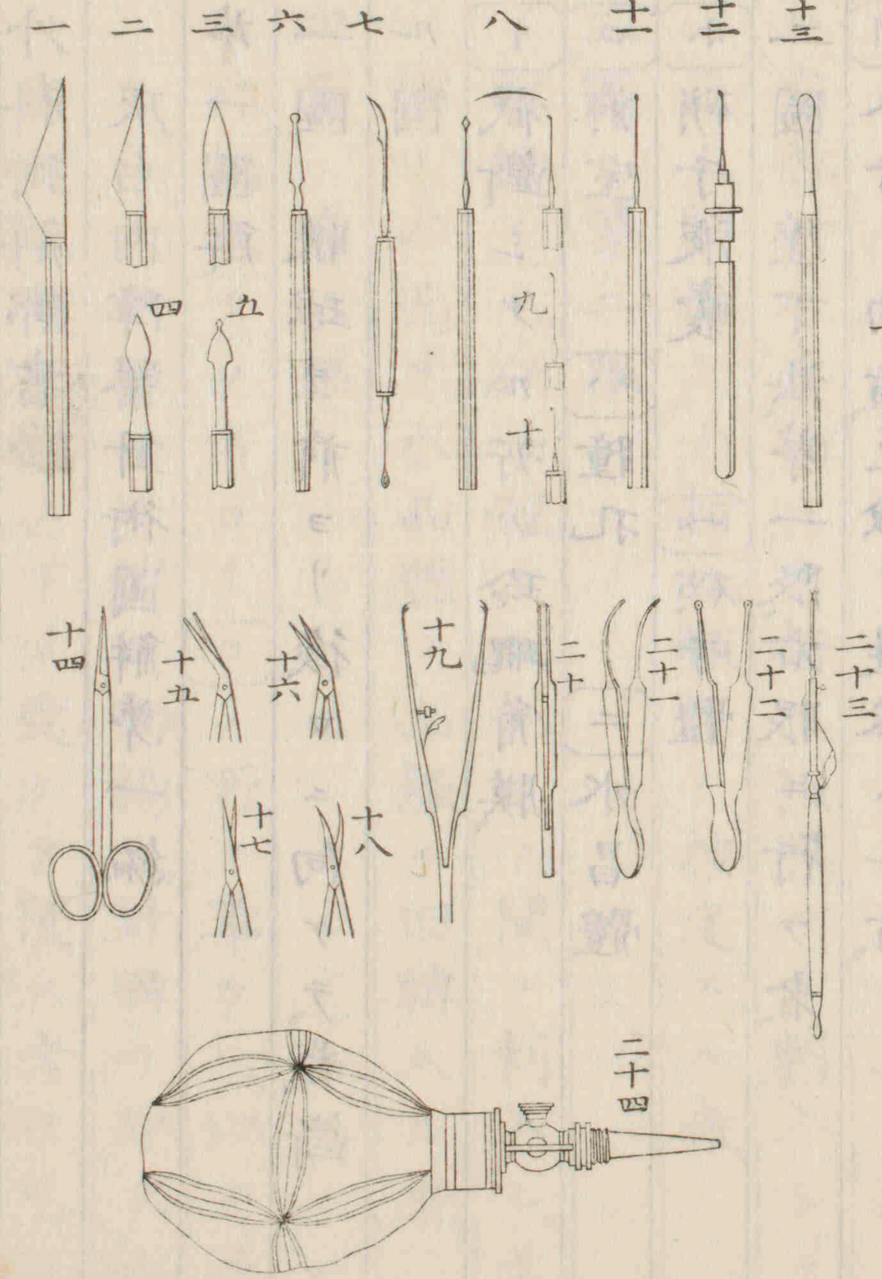
第一圖



第二圖


一
イ
ロ
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二

第三圖


一
二
三
四
五
六
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四

外科術解部書

灰白内障翳針術圖解第一編

第一圖解

第一圖　眼球ヲ前ヨリ後ロニ向ケテ截斷シタル圖。

イ截斷シタル所ノ玲瓏角膜。

ロ前室　ハ瞳孔　ニ水昌體

ホ硝子液囊　ヘ硝子體

第二圖　墜下法第一限。右眼ニ行フ者。

イ从者ノ兩指。上瞼ヲ提擧スル者。

ロ術者ノ兩指。下瞼ヲ墜下スル者。

ハ内障針ヲ左指ニテ持チ。強膜ヨリ刺入シテ。而〆間指ト小指ハ。額上ニ按定スル者。

第三圖　第二限

針鋒イヲ。硝子體ト紅彩トノ間ニ刺入シ。其鋒ノ四面ヲ。水晶體ノ上縁ニ回轉スル者。

第四圖　第三限

針柄ヲ。イノ所ヨリロノ所ニ擧ケテ。以テ是ヲ「ヘフボームス」狀ニ動揚シ。針鋒ヲ以テ。水晶體ヲ。硝子體ノ下ニ受ケテ墜ス者ナリ。

第五圖 墜下法、左眼ニ行フ者、
〔イ〕第一限、針ノ位置、〔ロ〕第二限ノ位置、
〔ハ〕第三限ノ位置、
第六圖 回轉式
〔イ〕ノ水晶體ヲ、〔ロ〕ノ硝子體中ニ回轉スル者、

第二圖解

第一圖 第一限
〔イイ〕以者ノ兩指、上瞼ヲ固持スル者、
〔ロハ〕術者ノ示指、中指、下瞼ヲ下引スル者、
〔ニ〕術者ノ右手、角膜刀ヲ保持スル者、此ニ擧ル

所ノ圖ハ、角膜刀ノ尖、既ニ角膜ヲ貫ク所ノ
者ナリ、
第二圖 角膜下半ヲ、截斷シテ片ヲ為ス者、
第三圖 第二限、「キストトメ」人名、〔イ〕ヲ以テ硝子嚢
ヲ截開スル者、
第四圖 第三限、水晶體ヲ剔出スル者、
〔ロ〕ノ刀柄ニテ、上瞼ヲ軟壓シ、術者其指〔イ〕ヲ以
テ、下瞼ヲ下方ヨリ、上ニ向ケテ押ス者、
第五圖 環ヲ用ユル式、「デスマルレス」人名ノ發明
ニシテ、眼瞼ヲ固持スル器ナリ、〔イ〕ハ即チ環

ニシテ、[ロ]ハ是ヨリ生スル所ノ尖脚ナリ、是ヲ強膜中ニ刺シテ、眼球ヲ固定スルナリ、

第六圖　斜メニ角膜ヲ截斷スル式、

眼刀[イ]ヲ、上ト外ヨリ、斜メニ内ト下トニ向ケテ、刺入スルナリ、

第七圖　角膜上半ヲ截開スル式

眼刀[イ]ヲ、横ニ外ヨリ内ニ向ケテ刺貫シ、下ニ向ケテ上半ヲ撒開スルナリ、

第八圖　「ヒルナリ」人名ノ術、[イ]ハ「ヒルナリ」ノ發明ニ出テ、眼ノ前室ニ刺ス式、

臨淵山房藏

第九圖　同上ノ術ニシテ、「キストリデウル」器名ヲ以テ、水晶體ヲ摘ムノ式

第十圖　假造瞳人ノ式

「ミュルデル」人名ノ發明ニシテ、瞳孔ヲ十字形ニ截リ、其片ヲ「キニーシカール」器名ニテ截斷スルナリ、

第十一圖　同上ノ術紅彩ヲ搾出スル式、

「ミール」人名ノ法ニ由ル、其法ハ先ツ角膜ヲ截リ、是ヨリ刀ヲ刺シテ、瞳人ニ當ル所ノ紅彩ヲ鉤出スルナリ、故ニ角膜中ニ一創ヲ造リ、

臨淵山房藏

小鈎ヲ以テ紅彩ヲ破リ、其破片ヲ角膜創中ニ挿ツナリ

第十二圖瞳孔一部分ヲ放開スル式。シカルパ術針（イ）ヲ、強膜ヨリ刺貫シ、紅彩ヲ上ヨリ放解スルナリ。

眼球解剖説第二編

眼球ヲ合成スル諸部ヲ略記シテ、以テ眼病ニ行フ所ノ手術ニ緊要ナル者ヲ億念セシム。周圍ヨリ中心ニ至リテ、是ヲ列擧スレハ左ノ如シ。

結膜

其質緻密ニシテ、微糸血管ニ富ミ、眼瞼内面ノ外表ヲ被覆シ、遂ニ展テ眼球實質ノ角膜、強膜ヲ被覆ス。眼ノ内背ニアリテハ、層疊シテ複膜ヲナス。是所謂涙阜ト名ツクル者ナリ。而ノ眼瞼内面ヨリ展テ、強膜ヲ被覆スル所ハ、盲嚢ヲナスナリ。

角膜

強膜ニ密接シ、質ニ層ヨリ成ル。故ニ其間ニ手術ヲ行ハント要スル𪜈ニハ層間ニ刀ヲ刺入

シ得ヘシ、其質硬クシテ抗抵ノ力强シ、故ニ是ヲ截開セント欲スルニハ、鋭利ノ器ニ非サレハ能ハス、

强膜

視神經ノ側ラヨリ起リ、眼球ヲ包裹シ、角膜ニ接シテ止ム、此膜ノ色ハ「バアールレムールアクチ」ニシテ、其質弾力ト抗抵力トアリ、故ニ此膜ヲ刺スノ器ハ、尖鋒鋭利ニシテ、且ツ是ヲ施スニ其手微シク力ヲ入ルヽニ非サレハ、洞貫シ難シ、此膜即チ眼筋ニ連ル、

脉絡膜

强膜ノ内面ヲ覆フテ、相連接スルヿ緊密ナラス、此膜モ亦二層ヲ以テ成ル、第一層ハ内膜ニシテ、其色黒ク第二層ハ外膜ニシテ、真ノ静脉膜ナリ、其質、纎維様ノ結組織ニ成リ、無數ノ脉管措湊シ、又强膜ト、静脉膜トノ間ニ、脉管ト神經ト分數ス、

シリアエル動脉

此脉、瞳孔ニ向テ走ル、二條ノ動脉ナリ、其一條ヲ内支トシ、一條ヲ外支トス、眼ノ正中ノ横位

ニアリテ後ロヨリ出テ前ニ向テ走ル故ニ手術ニ當テハ此動脈ノ損傷ヲ防カンタメニ強膜ノ正中ヲ避ケテ其上下ニ於テスヘシ

毛様靭帯

脉絡膜ト強膜紅彩ノ間角膜ト強膜ト相接着スル所ニアリ灰白色輪ノ形ヲ成ス脉管ト神經トヨリ成ル而〆脉管神經各相連ロス凡ソ針刺術ニ於テハ是ヲ避ルヲ緊要トス

尾状層

脉絡膜内層ハ延テ皺襞ヲナスモノナリ瞳孔

ノ後ロニ懸放シ以テ水晶體ノ周圍ヲ囲ム然レ𪜈水晶體ト相連接セス

紅彩

角膜ト水晶體ノ間ニアル隔簾ニシテ角膜ト水晶體ノ間隙ヲ分テ二部トナス者ナリ其一部ハ則前室ニシテ角膜ト紅彩ノ間是ナリ其一部ハ後室即紅彩ト水晶體ノ間是ナリ○紅彩ハ角膜ノ中心其前面ヨリ離ルヽヿ僅ニシテ二「ステレーブ」ヨリ三「ステレーブ」ナリ又水晶體ヨリ離ルヽヿ一「ステレーブ」ニシテ尚且

水晶體ニ連接スルヿアリ。故ニ手術ニ當テ、紅彩ト水晶體ノ間ニ刀針ヲ刺スハ、至危ノ一術トナス。

瞳孔

眼ノ兩室前後此瞳孔ヨリ透リ、紅彩ノ中心ニアル圓孔ニシテ、毛樣靭帯是ニ懸連ス。然レ𪜈是ヨリ放離スルヿ甚タ易シ。人造瞳孔ノ術ニ於テ肝要ノ一事トス。凡ソ刀針ヲ用ヒテ眼中ニ充實スル流液ヲ漏泄シ、瞳孔ヲ壓スル、流液ノ力一時ニ變革スレハ、眼ノ中央ニ、紅彩浮泳ス。

灰白内障翳ノ剔出法ニ當テハ、謹愼シテ刀ヲ前室中ニ刺入スヘシ。

紅彩ノ形質ニ就テ、往昔ヨリ諸説アリテ、以テ瞳孔ノ活動ヲ説明セリ。故ニ此ニ論スル所ノ者ハ、人造瞳孔ニ就テ、生スル所ノ説ノミヲ取ルヘシ。光耀、莨菪ノ紅彩ニ感應スルハ、皆人ノ知ル所ナリ。夫レ物ノ功用ハ必ス其之レヲ用ル所ニ於テ説ニトス。

水晶體

紅彩ノ後ロニアリテ、形正圓ニシテ扁、恰モ凸玻璃ノ

如シ其質膠ノ如ク、數層相疊テ此ノ如キ形チヲ成スト雖𪜈、部分ニ由テ、調合同シカラス、中心ニ至テハ漸ク硬ク、外層ハ殆ト流動シ得ヘシ、是ヲ名ツケテ「モルカニセ」液ト云フ、○其内層ハ、水晶體核ニシテ、護謨質ノ如ク、指間ニテ壓セハ片々トナリ、壓搾セラレタル細片ハ、三角形ヲナス、其三角形ノ一尖ハ、中央ニ向テ立ツ、○此片々、各透明ヲ失フヿアリ、而メ其透明ヲ失フニ、輕重ノ度アリ、故ニ灰白内障翳、或ハ慧星ノ如キ者アリ、或ハ「マルメロ」色ヲナス者アリ、○水晶體ノ破碎シ易キハ、數片相疊聚シテ、其形ヲナス故ナリ、是墜下術ヲ行ニ臨テ、最モ戒心セスンハアラサル事件トス、○水晶體ハ、嚢ヲ以テ包裹セラル、而メ其嚢硝子體ニ緊接ス、又尾狀展ニモ緊接ス、此ヲ以テ其本位ヲ失ハス、故ニ水晶體、水晶嚢ノ墜下術ニ當リテ、是ヲ十全灰白内障翳ニ行フハ、或ハ墜下シ難キ者アリ、灰白乳糜翳ニハ、只嚢ヲ破リテ、其中ニ充實スル所ハ、乳糜汁ヲ泄スヲ以テ足レリトス、

硝子體

其質傑列乙状ニシテ眼球ヲ五分シテ其四分ヲ後ロヨリ充ル者ナリ

硝子體嚢

即チ硝子液嚢ニシテ其展延餘リテ硝子體ヲ區分シ以テ各區中ニ硝子體ヲ盛ル者ナリ若シ灰白内障翳ノ墜下法ヲ行ヒ易クナサシト欲セハ針ヲ用ヒテ水晶體ト硝子體ノ連接ヲ破離スルヲ或ハ緊要トスルヿアリ

灰白内障翳

此症ハ水晶體實質或ハ水晶嚢本質含容様ノ變化ニ據テ其一部或ハ全部曇暗ヲ成ス者ナリ而メ其變化ニ據テ出ル所ノ曇暗ニ諸性アリ是手術ノ異ナラサルヲ得サル所以ナリ

曇暗ノ所在ニ由テ是ヲ分テハ在ノ如シ

其一ハ水晶體嚢ニアルノミ是ヲ名ケテ水晶嚢灰白内障翳トス更ニ是ヲ細別スレハ其前面ニアル者アリ其後面ニ在者アリ或ハ前後兩面均シク曇暗トナル者アリ「マルガイム子」及ヒ「リユッテ」（共ニ人名）云ク此病ハ真ニ生スル者ニ

非ス。只多クハ水晶嚢ノ内面ニ、混濁物ヲ滲出シ、其形影曇暗ヲナス者ナリ。故ニ刀或ハ鑷ヲ以テ、是ヲ剖除シ得ヘシト。

其二、所謂「モルガニ液、化成シテ以テ曇暗ヲナス者ナリ。蓋シ此症、或人ハ有トシ、或人ハ無トス。

其三、水晶體實質ニアル者、

其四、水晶體嚢ト、水晶體均シク曇暗ヲ成ス者」

○灰白内障翳ノ性ニ從テ是ヲ分テハ、堅内障翳、軟内障翳、水内障翳トス。

内障翳所在ニ就テ其症ヲ論スレハ、水晶體實質ノ曇暗ハ、他性ニ比スレハ至必ニシテ、瞳孔ノ後面深處ニ在テ黒輪是ヲ纏フ。此輪ハ、紅彩ノ陰影、内障翳ニ映リテ生シ、スラフシカアジ」ウトニス、其曇暗厚薄ナリ。其色均シク、但中心微シク暗黒ナリ、紅彩ノ沛動、障碍セラレス視カハ、他性ニ比スレハ微ナリ。

水晶體嚢内障翳

曇暗蔓延シテ、瞳孔ニ近ク接シ、尚且接シテ其間毫末モ容レサル者アリ。黒輪ナク、紅彩ノ沛

動ト視力著シク障碍セラル、水晶體前面曇暗ノ輕度、水晶體實質ノ曇暗ヲ兼併スル者ハ、是ヲ辨別シ難シトス、然レ𪜈水晶體嚢ノ曇暗甚シケレハ、其病面濃厚汚穢ノ症候ヲ顯シ光澤ヲ失フ、

水晶體嚢前面曇暗ノ極度ニ至レハ、其内恒星ノ如キ斑文ヲ僅ニ顯ス、

水晶體嚢後面ノ曇暗ハ、其前面ノ曇暗ニ比スレハ甚タ少ナシ、水晶體嚢ノ前面ト、水晶體ト、洞徹シテ診ヒ得ヘク、其後面ニ當テ、混濁蜘蛛

糸状ヲナスヲ以テ、是ヲ辨スヘシ、

内障翳ノ性ヲ論ス

堅水晶體變質ハ、其嚢ノ曇暗ヲ兼併セサルヲ常トス、而メ其變質至レハ、其色ニ灰白黄色ニ類ス、始メハ水晶體核ヨリ始マリ、漸ク四縁ニ蔓延ス、其四縁ニ蔓延スルニ從テ、黒輪漸ク昭明ナル、紅彩ノ活動ト、視力碍ラルヽコト少ナク、角膜常ニ變ルコトナシ、此曇暗ハ、殊ニ健全ノ老人ニ於テ多ク見ル所ニシテ、兩眼一時ニ病ニ罹ル者ニ非ス、

軟水晶體曇暗ハ、通例嚢ノ曇暗ト合併シ、其合併セサルモ、日ナラスシテ輕度ノ合併ヲ致シ、其色、灰白色ニシテ、周圍ニ散大シ、必ス中心ヲ殘ス、角膜少シク柔軟トナル、此症ハ中年ノ人ニシテ、惡液質ナル者ニ生ス、多クハ其經過速ニシテ、兩眼均シク顯ル、

水内障翳、（多クハ生来ノ者）特リ水晶體ノミナラス、必ス其嚢ノ曇暗ヲ兼發ス、其色、乳白色、或ハ水晶體嚢中ニ膿ヲ釀スヲ以テ、帯白黄色ナル者アリ、散大シテ瞳孔ヲ覆ヒ、黒輪ヲ顯サス、其膿曇

暗ナルヲ以テ、濃厚革ノ如シ、角膜甚シク軟化シ、視力頗ル障碍セラレ、日後屢々兩眼ニ劇度ノ焮衝ヲ生ス、此病ヒ、多クハ惡液質ノ人ニ生シ、大概一眼ニ限ルナリ、

○内障翳ノ手術施行ニハ、病者健全ニシテ、病眼焮衝ノ景況絶テナク、角膜、瞳孔ノ當ル所ニ於テ、斑痕ヲ顯サス、瞳孔活動シ、網膜ハ光輝ニ應シテ敏鋭ニ、内障翳全ク熟スル者ニ施スヘク、而メ黒障眼、其他ノ疾患ヲ兼併スル者ニハ、手術ヲ施ス可カラス、

風雨ノ日ニハ、手術ヲ行フヘカラス、此ノ如キ日ニハ、僂麻質、痛風、發作スレハナリ、一眼内障翳ニ罹ル者ハ、他眼、此病ヒニ罹ルヲ待テ、而後術ヲ行フヘシ、但シ小兒ハ一歳半以下ハ、又手術ヲ禁ス、

豫備法

手術前一二日ハ、先ツ食物ヲ嚴禁シ、滋養ノ物ヲ與フヘカラス、眼焮衝ヲ發出セントスルノ感傷ヲ悉ク禁ス、而メ緩下劑ヲ行ヒ、以テ頭中ニ欝積スル所ノ血液ヲ、腸中ニ誘導スヘシ、手

術ノ前日ト當日ニハ、點眼水ヲ行フ、其眼藥ハ、「ヘラトーナ」一分、溜水四分ヲ和スル者ヲ滴入シテ、瞳孔ヲ散大セシム、若シ瞳孔散大スルト雖𪜈、手術ノ時ニ當テ、縮小セントスルノ恐レアルトキハ、手術前四分時ニ當テ、右ノ眼水ヲ摘入スヘシ、

病者、術者ノ位置

病者ハ抵キ机上ニ坐シ、術者ハ夫レヨリ稍高キ机上ニ坐シテ相對シ、而メ病者ヲ少シク俯視スヘシ、介者ハ、病者ノ後ロニアリテ、病者ノ

頭ヲ、其胸ニ當テ固持シテ、以テ動揺セサラシメ、且其一手ヲ、病者ノ頤下ニ案シ、他手ハ、病者ノ前額ニ按シ、其前額ニ按スル、示指ト中指ニテ、眼ノ上瞼ヲ提挙ス、此ニ注意スヘキハ、必ス少シモ眼球ヲ壓迫スルヿ勿レ、又手術間眼瞼ヲ針刀ニ觸レシムルヿ勿レ、此ヲ以テ、「デスマルレス」名人ハ、両指ニ塗ルニ結列乙土ヲ以テス、又「レノルレ、スノウテン」名人ノ發明ニ出ル、眼瞼固持器ヲ用ユルヿアリ、

術者ハ、眼球ヲ固持スルニ、或ハ層鈎ヲ用ヒテ、

是ヲ強膜ノ結膜中ニ刺入スルヿアリ、然レ𪜈多ハ示指中指ヲ以テ足レリトスヘシ、則術者ノ示指ヲ以テ、下瞼ヲ下方ニ牽キ、中指ハ稍高ク下瞼上ニ按シテ、内眥涙阜ニ接スヘシ、而メ輕ク内ヨリ外ノ方ニ、眼球ヲ壓スヘシ、

手術

水晶體曇暗ニ行ス、手術數法アリト雖𪜈、今此ニ緊要ナル術、四法ヲ列挙ス、其一ハ、轉移法ナリ、水晶體ノ曇暗ナル者ヲシテ、下方ニ轉移セシメ、或ハ後面ニ回轉セシムルナリ、其二ハ、破

碎法。即チ水晶體ヲ分碎スル法ナリ。其三ハ。剔出法。水晶體ヲ全ク剔出スル法ナリ。其四ハ吸出法。水内障翳ナレハ。此術ヲ用ヒテ。大概ニ吸出スルナリ。凡ソ眼疾ノ諸症ニ應シテ。法術ヲ撰用シ。宜シキヲ取テ行フハ。此書ノ預ル所ニアラス。且従来。實驗スルニ。其的當ヲ未タ得難シトス。是特ニ我輩ノミニアラス。名譽ノ眼科豎ト雖モ。未タ其確症ヲ論スル者嘗テアラス。然レ𪜈。左ニ緊要ノ諸件ヲ擧テ。的當スル疾病ヲ論ス。轉移法ハ。柔。軟。水晶體嚢内障翳ニ行フ

ヘシ。水晶體實質ニアル。堅内障翳モ。他ノ事件アリテ。剔出法ヲ行フヿ能ハサレハ。亦此術ヲ以テ主治トスヘシ。剔出法ハ。堅内障翳ト積年内障翳トニ適當ス。分碎法ハ。軟。水。兩性内障翳ニ主治トス。又水晶體嚢内障翳ニモ用ユ。其水内障翳ハ。法ニ由テ論スレハ。吸出法ヲ以テ勝レリトス。

第一轉移法

此術ニ二法アリ。一ヲ墜下法ト云ヒ。一ヲ回轉法ト云フ。二法共ニ。針ヲ。角膜或ハ強膜ヨリ。眼

中ニ刺入スル術ナリ、
此術ニ要スル針ハ、第三圖ノ八、九、十、十一、符ノ者ナリ、「ジカルパ」名ノ針ハ、甚タ曲リ、「ジビーテレン」名ノ針ハ、少シク曲レリ、其凸面ニ稜アリテ、以テ針鋒ヲ強健ナラシム、然レモ稜アルヲ以テ、水晶體ヲ破リ、且是ヲ墜下スルニ便ナラス、「ジビーテレン」ノ針ハ、片狹ニシテ其脚ケーゲル状ヲナシ、以テ針創ヲ栓塞シ、水様液ノ流出ヲ防ク、針柄ハ、凸面ニ當ル所ニ於テ小點ヲ具ヘ、以テ針鋒眼中ニ入ルト雖モ、其凸凹ヲ辨

スヘシ、

（甲）其一術　強膜ヨリ行フ者

第一限、針刺法 即左眼ニ施スモノ

術者、下瞼ヲ下方ニ壓シ、眼ヲ左ノ示指ト、中指ニテ固持シ、右指ノ拇指ト、示指中指ノ間ニ針ヲ執ル事、恰モ執筆ノ状ノ如クス、而メ環指ト小指ヲ顴上ニ安ス、今針鋒ヲ強膜ニ當テ、斜メニ下ヨリ上ニ向ヒ、其凸面ハ上ニ向ケ、而又ハ横ニマリテ、以テ毛様靭帯ノ、脉管ノ位置ニ應シテ、強膜中ニ刺入スルナリ、蓋シ将ニ是ヲ刺

ントスル時ニ當テハ、術者ハ病者ニ命シテ、其眼ヲシテ内方ヲ見セシメ、直チニ強膜中ニ刺入スヘシ、其刺ス所ハ角膜ノ後ロ、三「ステレープ」ヨリ、四「ステレープ」、正横ノ下タ、一「ステレープ」ヨリ、二「ステレープ」ノ所ニアリ、若シ角膜ニ密接スル所ヲ刺セハ、紅彩ト毛様靭帯トヲ毀傷スルノ恐レアリ、若シ角膜ヨリ離ルヽ丁遠ケレハ、恐ラクハ水晶體ヲ洞貫シテ、紅彩ノ後ロニ於テ、運轉スル術ヲ施シ難シトス、又正横當中ニ針ヲ刺セハ、脈管ヲ毀傷スルノ恐レア

リ、如何トナレハ、此動脈ハ正横ヲ行ケハナリ、凡ソ手術ハ驗速ニシテ、其手強健ナラスンハアラス、其故ハ、此時ニ當テ、病者動モスレハ頭ヲ退クヲ以テ針刺ノ位置ヲ變動シ、或ハ已ニ眼中ニ刺ス所ノ針再ヒ抜レハナリ、

第二限

紅彩ト水晶體トノ間ノ針刺、第一圖第三符 今針、強膜ヲ貫ケハ、則慎テ其凸面ノ眼中ニ顯ルヲ以テ度トスヘシ、是ヨリ深ケレハ、微シク抜テ其度ニ適セシム、而メ指ニテ針柄ヲ回ハシ、以テ

針ノ凸面ノ後方、両刃ヲ上下ニ向ケ、針ヲ微シク起シ、顳顬ノ方ニ向ハシム、第一圖五圖ノ八管今針鋒、水晶體ノ下縁ニ傍ヒ、紅彩ト水晶體ノ間ヲ行キ、而メ其水晶體ト、紅彩ニ觸レサラシム、此術ニ當テ、特ニ注意スヘキハ、紅彩ト水晶體嚢トノ愈着ナリ、針鋒ヲ正直ニ向ケ、其後口、外ヨリ内ニ向ケテ回ハシ、以テ針鋒ヲ瞳孔中ニ目撃シ得ヘキニ至ル、

第三限水晶體嚢破碎

凡ソ内障翳、多クハ水晶體諸屬ヲ、倶ニ悉ク墜

下スルヿ能ハサル者トス、此ヲ以テ其嚢ヲ破裂スルハ、殊ニ軟内障翳、體内障翳ニ於テ緊要トスル一術ナリ、尚且水晶體ノ變化、如何ヲ確定スルヿ能ハサル者ニ於テハ、其嚢ヲ破ラサレハ、術ヲ全フスルヿ能ハサル者アリ、故ニ豫メ定ル所ノ術、其効ヲ全フスル能ハサル者ハ、時ニ臨テ、或ハ體嚢ヲ破裂シ、以テ十全ノ効ヲ収ルヿアリ、其法ハ、針刃ヲ以テ、始メニ水晶體ノ下縁ヲ開キ、其刃ヲ動轉シテ、以テ其上縁ヲ開ツヘシ、

第四限 水晶體轉移 第一圖 四宵

嚢ヲ離スノ後。直チニ針ノ凸面ヲ以テ。水晶體ノ上縁ニ當テ。小心徐々ニ。「ヘフボームス」狀ニ是ヲ揺スナリ。蓋シ刀柄ヲ揚ケ。是ヲ前方ニ動シテ而メ水晶體ヲ。下タ外トニ向ケ。硝子體中ニ墜下スルナリ。而メ針ヲ八秒時ヨリ十秒時間靜定シテ。是ヲ軟々下ニ向ケテ押シ。以テ水晶體ハ。針ニ應シテ揚ラス。復眼ノ前室ニ顯レサルニ至ル。若シ水晶體。從テ前室中ニ現ルレハ。即チ針鋒ヲ。硝子體中ニ刺シ。是ヲ後方ニ

向ケ。瞳孔中ニ潛伏ス。若シ此術効ナケレハ。角膜ヲ割テ剔出スヘシ。〇此術ハ行ヒ難キヲ以テ。「ケルジイ」人名ハ。一種ノ針ヲ工夫シテ。以テ其術ヲ行ヒ易カラシム。其針ヲ眼中ニ刺入シ。意ニ應シテ。針鋒ハ割レテ二尖トナリ。尖間ニ水晶體ヲ狹ミ。以テ確實ニ眼底ニ沈沒セシム。故ニ「ヘフボーム」狀ハ。動揺ヲナスニ及ハス。墜下後。水晶體嚢。及ヒ其一部破裂シテ眼ノ正中ニ浮泳スルコトアリ。則一々是ヲ摘ミ。前室水様液中ニ出シ。以テ吸収セシム。續發內障翳

臨湖山房藏

ヲ防クヲ要ス。蓋シ續發内障翳ナル者ハ。片々相愈合シテ。遂ニ一種ノ内障翳ヲ生スル者ナリ。（丁）紅彩ト近接スル所ノ内障翳アリ。此症ハ水晶體嚢ヲ。其前面ニ於テ破裂スルノ術ノミヲ行フヘシ。是ヲ行フニハ細鈎ヲ用ヒ。紅彩ト水晶體嚢トノ間ニ刺入シ。瞳孔ノ當中ニ於テ。鈎尖ヲ嚢ニ向ケ。以テ其嚢ヲ線状ニ破裂スルナリ。

（乙）其二術　角膜ヨリ行フ者

即チ角膜ヨリ墜下スル術ニシテ。此症ハ只眼

球眼窩内ニ陥リ。旋動快敏ニシテ。是ヲ固持シ難キ者ニノミ行フヘシ。針鋒。瞳孔中ニ入レハ。其動揺ノタメニ。紅彩ノ邊縁ヲ毀傷シ易シ。故ニ此ニ注意スヘシ。又水様液流瀉シ。水晶體前室中ニ脱出シ。角膜ノ創痕等。危險症ヲ残ス。尚且是等ノ事件ニ由テ。術モ亦極メテ施シ難シ。故ニ昔ヨリ此術ハ。十全ノ効ヲ治ムル者寔ニ少シトス。

第一限針刺法

針口瘢痕ヲ遺シ。透明ナラサルヲ以テ。針刺ノ

處ハ角膜ノ邊縁殊ニ其下縁ニ於テ行フヘシ。若シ角膜中已ニ透明ナラサル所アレハ則其所ニ於テ針刺ヲ行フヘシ。其針ハ両刃ヲ上下ニ向ケ角膜ヨリ刺入シ以テ線状ノ創口ヲ造ル。

第二限

今針鋒前室ニ至レハ其凸面ノ位置ヲ水晶體ニ向ケシメ上法ヲ以テ水晶體嚢ヲ破リ針ノ凸面ヲ水晶體ノ上縁ニ當テ以テ是ヲ硝子體ニ向ケテ壓下シ針柄ヲ「ヘフボーム」状ニ上

ト内トニ向ケテ動搖セシム。

丙 其三術強膜ヨリ行フ者（第一圖 六背）

第一限及第二限。

針鋒ハ瞳孔中央ニ現ル、ニ至ルマデハ角膜ヨリ行フ者ニ殊ルコナシ。只針頸ヲ壓下シテ其針ヲ水晶體ノ三分ノ一ノ上部ニ至ラシムルヲ異リトス。則第三限ニ移ル。第三限ハ水晶體ヲシテ後方ニ回轉セシムルナリ。今針頸ヲ前ト上下ニ遣リ以テ「ヘフボーム」状ニ動シテ水晶體ヲ正横ニ轉シ而メ是ヲ硝子體中ニ

向ケ「ムム、レリキス、エキテルニス」ト、「インヘリオルト」ノ間ニ沈没セシム、如此スレハ、水晶體ノ前面ヲ上方ニ其後面ヲ下方ニ回ラスナリ即針ヲシテ其頸マテ抜キ、又是ヲ刺シ、以テ水晶體ノ全ク墜下シテ、針ニ應シテ昇ラサルヲ試ムヘシ、若シ針ニ應シテ、水晶體昇ル者ハ、更ニ此術ヲ反復シテ行ヒ、再ヒ昇ラサルニ至テ止ム、若シ此術ヲ反復シテ行フト雖モ、水晶體墜下セサル者ハ、破碎術ヲ行フヘシ、

丁 其四術 角膜ヨリ行フ者

角膜ヲ刺貫スルニハ、直針ト曲針ヲ用ユ、其用法ハ、上ノ墜下法ニ同シ、角膜ヲ刺貫スルノ後遠ク針ヲ上方ニ斜違シ、其鋒水晶體ノ上縁ニ至ル、（針ノ四面ハ、水晶體ノ前面ニ相對スルヲ肝要トス、）即針頸ヲ、上ト前トニ向ケ、以テ水晶體ヲ下ニ押シ、硝子體或ハ水様液中ニ回轉ス、

今此變法ト、其行フ人貟ヲ略論ス、「ドヂツト」、「ヘルレイン」、其後「ボウエニ」ハ、水晶體囊ヲ破解スルノ後、水晶體ノ後面ヲ摘マミ、以テ水晶體ヲ墜下シ、水晶體ノ前面ハ、其マヽ

存シテ本位ニ在ラシム、
ブニトニテアウ」ヘルベアウリエッテ」ハ、強膜ヲ刺貫スルノ後、水様液ヲ充ル所ノ房ヲ破リ、以テ一溝ヲ成シ、其溝中ニ、水晶體ヲ墜下セシムルナリ、
ベルフロニ」ロイラニト」ハ、水晶體ノ周圍ヲ悉ク硝子體ト尾状展ヨリ解離シ、水晶體ト共ニ其嚢ヲ硝子液中ニ壓下スルナリ、
バウリ」其後「ヘルヘス、デ、ゲコイニ」ハ、水晶體ヲ墜下スルニ従テ上揚スルコアリ、其故ハ、水晶體ト、硝子體ト、其量ヲ比較スルニ、水晶體ハ輕ケレハナリ、墜下法ノ効ナクシテ上揚スルハ、此理ニ據ルト云ヘリ、
モルカイムチ云ク、水晶體ハ、其嚢ト共ニ墜下スレバ、更ニ上揚スルノ理ナシト云、又其嚢ハ、久シク吸収機能ニ對抗シテ消散セラレス、又本位ニ在リト雖モ、障碍ヲ致サヽルヲ以テ、此術ヲ論スルコ左ノ如シト云フ、強膜中ニ針ヲ刺スニハ、凸面ヲ上方ニ向ケ、以テ水晶體ノ下部ト後部トニ觸レシムヘシ、今針鋒ヲ後方ニ

遣ル二由テ、嚢ノ後面ヲ分ケ、以テ半月状ニ、硝子體中ニ於テ動シ、針ノ凹面ヲ、水晶體ノ上縁ニ向ケテ押シ、以テ下ニ向ケテ抜クナリ、如此行フハ、嚢其本位ニ居テ、微シモ動ス、其前葉後葉、遂ニ相愈合スル者ナリ、然レモ此術ハ、獨リ水晶體内障翳ニノミ行フベシ、

第二分碎法

此術ニ行フ器ハ、轉移法ヲ行フ器ニ同シ、病者術者ノ位置モ亦同シ、

甲 其一術強膜ヨリ行フ者

針ノ刺貫、及ヒ其送遣ニテ、瞳孔中ニ顯ル、ヽテハ、總テ第一轉移法篇ニ記載スルガ如シ、則針鋒、水晶體ノ内縁ニ届ルニ及テ、針刄ヲ回轉シテ、水晶體ニ對シ、以テ是ヲ截ルナリ、其是ヲ截ルニハ、針ヲ抜クノ意ヲナシ、又針頸ヲ少シク前方ニ牽テ、以テ正横ニ是ヲ切斷ス、其後、針ヲ或ハ牽引シ、或ハ送遣シ、以テ水晶體ヲ、縦横、片々ニ截斷ス、即其片々分碎スルヲ見テ、針ヲ抜クナリ、若シ其水晶體ノ核、堅靭ニシテ是ヲ分碎セント欲スルト雖モ、切斷スルヿ能ハス、

由テ吸盡シ得ヘカラサルノ先見アル者ハ、即
針ヲ抜カサル前ニ術ヲ轉シテ、第一術ノ轉移
法ヲ行フヘシ、故ニ第一術轉移法トハ、合併シ
テ行フヲ良トス、或人ハ吸収力ヲ促シ易カラ
シカタメニ、分砕セル水晶體ノ一片ヲ、前室中
ニ鈎出スルヲ試ミタリ、

（乙）其二角膜ヨリ行フ者

凡ソ角膜ヨリ行フ術ハ、轉移回轉法ノ術ニ同
シ、但針鋒ハ、眼ノ後室ニ届ケハ、是ヲ硝子體ノ
上縁ニ向ケテ、以テ針頸ヲ揚ケ、縦横斜意ニ分

砕シテ、以テ針ヲ抜除スルナリ、

第三剔出法

剔出法ハ、角膜ヲ截テ、水晶體ヲ剔出スルナリ、
其角膜ヲ截ル術ヲ、「ケラトトミア」ト云ス、強膜
ヲ截ル術ヲ、「セクレロトトミア」ト云ス、
此ニ備ル器ハ、内障刀、即角膜ヲ切開スルニ備
ス、内障針ハ、則水晶體嚢ヲ離スニ備ス、其他小
匕、細鑷、小鋏、（第三圖一ヨリ七ニ至ルノ圖）「ウェンセル」ノ刀ハ、「ラ
ンセット」状ヲナス、故ニ角膜ト、水晶體嚢トヲ、均
シク鮮截スルニ便ナリト雖𪜈、其創痕全ク愈

合セサルノ害アリ。故ニ是ヨリシテ水様液流出ス「リクテル」ノ刀ハ頗ル其用ニ適ス、其鋒短ク三角形ヲナス、故ニ角膜創ヲ鎖閉シ易ク、且其刀短キヲ以テ、内背ヲ毀傷スルヿヲ免ル、

預法總論

總テ水晶體墜下法ニ異ルヿナシ、

此術ハ、角膜ニ半月状ノ創痕ヲナス者ナリ、其創痕ノ位置、或ハ上ニ向キ、或ハ斜メニ向キ、或ハ下ニ向ス、其方位ニ従テ、運動モ亦異ナラサルヲ得ス、

甲 其一術剔出法 第二圖一二三四脊

第一限、即角膜ノ轉移法、第一術

先ツ刀尖ヲ角膜上ニ置キ、其位置ハ、角膜ノ正横ニアリ、強膜ヨリ離ル、ヿ、一「ステレーブ」ヨリ二「ステレープ」ニアリ、今術者ノ腕ハ、強徤ナルヲ貴ス、而メカヲ入レテ、刀鋒ヲ前室中ニ刺ス、而メ一瞬間鎮定シテ、以テ紅彩ヲ損傷セサラシム、其損傷セサルヲ見テ、刀鋒ヲ正横ニ、外ヨリ内ニ向テ刺シ、横位ニ従テ深ク入レ、其創口ニ相對スル所ノ他側ニ於テ、是ヲ内ヨリ外

ニ貫クナリ、今細心徐々ニ刀ヲ刺シ、以テ角膜ヲ截斷シテ創片ヲ造ルナリ、其創片ノ縁ハ、角膜ヲ離ルヽヿ相均シキヲ要ス、若シ夫レ快手ヲ以テスルトキハ、紅彩ヲ毀傷シ、水様液ノ流出ヲ促ス、故ニ刀ヲ刺シ、創口ヲ造ラサル前ニ於テ、針劍ニ由テ生スル所ノ筋痙ヲ經過セシメ、刀ヲシテ絶ヘス鎖閉シ、手術中注意シテ、刀口ヨリ水様液ヲ流出セシムルヿ勿レ、而メ創片ヲ造ルニ及テハ、眼瞼ヲ下引シテ、眼ヲ鎖シテ病者ヲ暫ク姑息セシム、

第二限 水晶體嚢解截

刀ヲ執ルヿ猶執筆ノ式ノ如ク、是ヲ創内ニ下タヨリ上ニ向ケテ入レ、刀背ハ創片ニ對シ、刀鋒ヲ水晶嚢ニ向ケテ、以テ慎テ嚢ヲ解截スルナリ、蓋シ此時ニ當テ、嚢ヲ壓廹スルヿ勿レ、是ヲ解截スルニハ、又尋常内障針ヲ用ル者アリ、

第三限 水晶體剔出

多クハ嚢ヲ解截スレハ、水晶體從テ自ラ脫下スルナリ、蓋シ眼球ヲ引縮スル所ノ筋力ニ由テ然ル者ナリ、若シ自ラ脫下セサル者ハ、指或

ハ刀柄ヲ以テ、上瞼ヲ軟々壓下シ、以テ水晶體ヲ、瞳孔中ニ逐出スヘシ、則水晶體、前室ニ墜レハ、從テ創外ニ出ツ、又上下ノ兩瞼ヲ、同時ニ均ク壓廹シテ、其脫出ヲ促スヿアリ、若シ然ラハ、下瞼ノ壓廹ハ、下ヨリ上ニ向ケテナスヘシ、

或ハ瞳孔中、水晶體ノ一片、又囊ノ一片殘留シテ、再ヒ內障翳ヲ發露スルヿアリ、是ヲ防カンタメニ、小匕、若シクハ細鑷ヲ用テ、其細片ヲ拔除スヘシ、

（乙）其二術斜位剔出法第二圖ノ六箇「ウェンセル」ノ法

剌刀ノ所ハ、角膜ノ四分ノ上部、外部ノ中央ヨリシテ、其外方ノ四分ノ下部、內部ニ貫クヘシ、

其術ハ上ノ術ニ比スレハ難シ、然レ𪜈創痕愈ルヿ速ニシテ、下瞼創片ニ觸レサルヲ以テ、創縁ヲ動サズ、又鼻ト、涙阜トヲ毀傷スルノ患少シトス、

（丙）其三術上位剔出法第二圖七箇「リクテル」、「ウェンセル」「ヤイゲル」、「シーケル」等ノ諸人是ヲ行ヘリ、

此術ハ、斜位、下位ノ兩剔出法ニ異ルヿナシ、只創縁ハ上ニ向キ、角膜ノ上縁ニ、創縁ヲ造ルヲ

異リトス、而其術最モ難シトス、然レ𪜈又水樣液流出スルコ微ナリ、上瞼常ニ創縁ヲ被フヲ以テ、其愈合ノ尤モ速ナルノ利アリトス、

ヒルナリ」ノ法ハ、兩刄刀ヲ用ユ、（第三圖五符）其鋒先、小尖ニシテ僅ニ拗レリ、其小尖ハ、水晶體嚢ヲ解截スルニ具フ、

允ソ刀ハ、外背ヨリ内背ニ向ケテ、前室中ニ刺ス、（第二圖八符）而メ水晶體嚢ヲ截解シ、角膜創ヨリシテ、眼鑷ヲ刺シ、以テ水晶體ヲ破碎シ、是ヲ拔出スルナリ、（第三圖九符）

强膜ヨリ剔出スル法ハ、「ヘル、」（人名）ノ記載スル所ニシテ、邇年是ヲ用ル者ナシ、其法ハ、先ツ强膜ヲ割リテ、其創口ヨリ鑷ヲ刺シ、水晶體ヲ拔除スルナリ、允ソ此法ハ、毛樣靭帶動脉（シリアル動脉）ヲ毀傷シ、硝子體均シク脱下シ、脉絡膜、綱膜ノ焮衝ヲ繼發スルヲ以テ、角膜ヨリ行フ術ヲ勝レリトス、

キアドリ」（人名）ノ合併術ハ、先ツ强膜ハ、尋常ノ内障針ニテ刺貫シ、其式ハ墜下法、分碎法等ニ擧ルカ如シ、而メ細鑷ヲ角膜ヨリ刺シ、以テ嚢ヲ

分解シ、水晶體ヲ片々トナシテ、是ヲ角膜ヨリ鉤出スルナリ、此術ハ廢毀セラレテ、今用ユル者ナシ、

第四吸出法

此術ハ、水内障翳ニ適應ス、「ラウニエル」「ブランヘット」共ニ人名倶ニ是ヲ賞誉セリ、其術ニハ、精好ノ一器械ヲ用ユ、「ラウニエル」ハ、管針ヲ水晶嚢中ニ刺シ、此器ハ針鋒ニ一管ヲ通シ、針管ニ唧筒機ヲ具ス、以テ流動スル所ノ水翳ヲ吸取ル者ナリ、「ブランヘット」ハ、尖管針ヲ、先ツ角膜中ニ刺シ、而メ水晶體中ニ入レ、

以テ機關ヲ行フ、第三圖ニ十四符此器ハ、壓搾シテ、而メ自然ニ任スレハ、唧筒ノ機關ヲナシテ、水翳ヲ吸出スルナリ、

造假瞳人術

此術ハ、千七百二十八年、「セ、ルデン」人名始メテ行ヘリ、其後屢々其法ヲ變シテ行ヘリ、凡ソ此術ヲ要スルニ、眼病各其性ヲ異ニスルヲ以テ、其病原ニ從ヒ、術ヲ撰用セスンハアラス、是此術ニ數法アル所以ナリ、其病原ニ從ヒ、術ノ主治モ亦異ナレリ、此編ニハ、只手術ヲノミ記ス

一シ、其一術ハ截開法、其二術ハ截除法、其三術
ハ鮮離法、其四ハ自然瞳孔ノ轉移法ナリ。
此數術ヲ行フニ、術者及病者ノ位置ハ、内障
翳針術ニ記スルカ如ク同一ナリ。
其一術紅彩截開法、「セヽルデヽン」ノ法
小鎌状針ヲ、強膜中ニ刺シテ、而メ水晶體ヲ墜
下スルカ如キ意ヲナシテ、是ヲ運轉ス。針既ニ
後室ニ至ルニ及テハ、針鋒ヲ後ロヨリ前ニ向
ケテ回ハシ、是ヲ徹シク運轉シテ、三「ステレー
プ」ヨリ、四「ステレープ」ノ横截ヲナス、「サルブ」人名
ハ、角膜ニ針ヲ刺シテ、是ヲ行ヘリ、「ユリ子」人名ハ、
針ヲ強膜ヨリ刺シテ、先ツ紅彩ヲ、後ロヨリ前
ノ方ヘ貫キ、復ヒ其針鋒ヲ後ロノ方ヘ貫キ、然
シテ後ニ、針向キヲ轉シテ、後ロト下トニ向ケ
拽ケハ、此兩創口斷シテ一創トナル。此術ハ大
謹慎ヲ要ス、而メ水晶體、動モスレハ毀傷セラ
レ、紅彩多小著シク放離スルノ恐レアリ。
ヤニムク、紅彩ノ纖維ヲ、正横ニ截解スレハ、
其創縁再ヒ愈著シテ効ナシ、故ニ縱割スヘシ
ト、即角膜内ニ小刀、或ハ細剪ヲ刺シ、以テ自然

瞳孔ノ内方ヲ縦割スルナリ。然レ圧實驗ニ由テ是ヲ見ルニ。其愈着ハ何レモ異ナルヿナシ。

紅彩數截法

凡ソ紅彩ハ一截スレハ。其術如何ノ法方ヲ用ルトモ。必ス其創片鎖閉シテ癈痕ヲ生ス。故ニ數截法ヲ考出セリ。

「キュエリン」ノ法ハ。「セ、ルデン」ノ法ノ簡便ナルヲ以テ。是ニ「ヤニン」ノ法ヲ合併シテ行ヘリ。即先ツ角膜ヲ開キ。是ヨリシテ紅彩ヲ。十字形ニ截解シテ。以テ其纖維ヲ縦横ニ截解スルナリ。

○「フラヤン」ノ術ハ。「キュエリン」ノ如ク。只其用ル所ノ針ハ。角膜ヲ開キ。紅彩ヲ截解スルニ同器ヲ用ヘリ。

「マウノイル」ハ。角膜ヲ開キ。以テ。紅彩ヲ三角形ニ切リ。是ヲ剔出セリ。

「カルロン、デ、ヒルラルス」モ。上法ニ異ルヿナシ。只其鋏ノ柄先キニ眼孔アリ。是ニ「ヘール」ヲ附ケ。以テ其両刄ヲ開カシム。是其施行ニ便ナレハナリ。

「ヘル、ベアウ」ハ。柳葉形ノ両刄小刀。其尖蛇舌狀

ノ「ランセット」ニ同キ者ヲ用ユ。第三圖十二箭是ヲ横ニ角膜ヨリ紅彩ニ、前ヨリ後ロニ向ケ、後室中ニ刺シ、其後チ針尖ヲ後室中ニ、三「ステレープ」ヨリ、四「ステレープ」入ルヲ見テ、更ニ紅彩ヲ貫キ、前室中ニ出スナリ。故ニ針刺ノ創口、出入共ニ相對スルヲ良トス、今針鋒ヲ横ニ動シ、其空シキヲ計リテ、紅彩ト角膜トヲ一挙ニ撒斷スレハ、則創片ヲナス。其紅彩ノ創片ハ、上ニ向テ巻縮ス。是ヲ速ニ截除シ、以テ三角形ノ瞳孔ヲ造ル。

論ニ曰ク、紅彩截解法ハ、總テ其術ハ易クシテ且速カナリ。故ニ撚衝ノ諸症、他術ニ比スレハ徹ナリトス。然レ圧其効ヲ或ハ全フスルヿ能ハス。創口動モスレハ痊ヘ易クシテ其効ナキヿアリ。

第二術紅彩截除法、ウェンセルノ法 第二圖十二箭

此術ハ、「ヘルベアウ」行フ所ハ、第一術截開法ニ大略同シ。只解切スル所ノ、紅彩ノ創片ヲ鋏ニテ截除スルヲ異ナリトス。

サバチール」ハ、内障瞖針術ノ如ク、角膜ヲ截解

シテ、其創片ヲ揚ケテ、是ヨリ鑷ヲ刺シ、紅彩ヲ摘ヘミ、拽テ其外出スル所ノ、鋏ニテ切除スルナリ、是ニ用ユル所ノ鋏ハ、彎鋏ヲ用ユ、

「ピシカ」ハ、「ヒュールタシク」ニ同シキ鑷ヲ用ユ、其一臂ヲ紅彩ノ後ロ、一臂ヲ紅彩ノ前ニ挿ミテ、而メ兩臂相合シテ、紅彩ノ一片ヲ斷除スルナリ、「ヒルナリ」モ亦此器ヲ用ヱリ、

「ペールン」ハ、角膜ヲ徹シク割テ、其創口ヨリ鈎ヲ刺シ、紅彩ノ一部ヲ鈎出シ細鋏ニテ是ヲ切除スルナリ、

「ギフツン」、「ホシワルテル」、「ラルレテント」ハ、「ヘルヘアウ」ノ法ヲ、種々變シテ行ヘリ、

「デストルレス」ハ、角膜ヘ三孔ヲ造リ、鑷ニテ紅彩ノ一部ヲ牽出シ、以テ是ヲ截除セリ、

論ニ曰ク、紅彩截除法ハ、其截開法ニ比スレハ、造ル所ノ瞳孔、復鎖閉セサルノ利アリ、然レトモ其術頗ル難ク、術者ノ手、强健ナルニ非サレハ能ハス、且病者殆ト是ニ忍ヒ難シ、

其三術紅彩放離法

「アスサリニ」及ヒ「ビシカ」ハ、毛様靫帯ヨリ、紅彩

ヲ容易ニ放離セリ、而メ是ヨリ此術ヲ造瞳孔術ニ替エリ、「シカルパ」其後變法シテ、實地ニ便ナラシム、

「シカルパ」ノ法ハ、内障翳墜下法ノ如ク、針ヲ强膜ヨリ、紅彩ノ上ト内トニ送遣シ、其所ニ於テ、紅彩ヲ後ロヨリ前ニ向ケテ截解ス、其後「ヘフポームス」状ニ運轉シ、三分ノ一分ヲ放離シテ、是ヲ内ヨリ外トニ向ケテ截下スルナリ、

「レヘイルレ」ノ法ハ、水晶體ヲ壓下シ、以テ其毀傷ヲ防ク、其他ハ「シカルパ」ノ施セシカ如シ、

「ヒムリ」「フラヤン」「ペールヒ」ノ法ハ、角膜ヨリ針ヲ刺セリ、針ヲ角膜ヨリ入レハ、其術行ヒ易ク、瞳孔ヲ意ニ應シテ、紅彩ノ諸方ニ造リ得ヘシ、

「ヘスサリ」ニハ、角膜ヲ大ニ切リテ、以テ鑷ヲ刺シテ入レテ、紅彩ヲ放離ス、

「ボンセル」ノ術ハ、其後屢々變法セラル、小鉤ヲ以テ、紅彩ヲ放離スル術ナリ、

「ホン、ラヘンヘツキ」ノ法ハ、紅彩ヲ放チ、是ヲ角膜創内ニ拑搾スルナリ、其法ハ、尋常角膜刀ヲ以ニ、角膜ヲ割ル「ー二「ステレープ」ヨリ、三「ステレ

「ープ」其割口ヨリ小鈎ヲ刺シ（套管中ニ陰テ刺ストリ）紅彩ニ届ルニ及テ套中ヲ脱シテ以テ紅彩ヲ鈎シ是ヲ牽テ割口ニ出シ以テ其所ニ愈合セシメ瞳孔ノ愈合ヲ制ス

「ユングケン」「ホングラヘ」「レーシンゲル」ハ「ホンラン」ペッキノ器ヲ變作シテ用ヱリ其器ヲ名ケテ「コレオンシオン」トイフ而メ其術ニ於テハ異ナルコトナシ

「リサルジ」ノ法ハ鈎針ヲ工夫セリ其器ハ二臂ニシテ意ニ應シテ開合シ「ヘール」ヲ用ヒテ其開闔ヲ節スルナリ此鈎針ハ角膜或ハ強膜ヲ輙スク刺貫シテ眼中ニ入リ易キ者ナリ即眼中ニ刺貫スルノ後臂ノ一方ヲ後方ニ送遣スレハ即小鈎現ハル以テ紅彩ノ一部ヲ摘ム「ヘール」ヲ放テハ動活ノ臂鈎ヲ抑シ以テ鑷ノ機轉ヲナシ紅彩ヲ放解スル一部ヲ引テ創中ニ牽クナリ

「ド子ハナ」ノ法ハ大略「リサルジ」ノ法ニ同シ只角膜ヲ截テ此器ヲ用ユルナリ小鎌状針其刄四面ニアル者ヲ以テ角膜或ハ強膜ヨリ眼中

ニ刺シ其凸面ヲ以テ紅彩ヲ放解シ而メ其又ニテ紅彩ヲ周圍ヨリ中央ニ向ケテ截解ス

ヒギュイエル論シテ曰ク紅彩ハ一旦是ヲ放解スレバ切開シ難ク器ヲ以テ是ヲ摘ヘメハ忽チ収縮ス故ニ先ツ中央ヨリ截解シテ周圍ニ及ホシ是ニ由テ成ル所ノ創片ヲ放解スルニ若カストヱヘリ

論ニ曰ク強膜ヨリ行フ手術ノ諸法ハ水晶體損傷シ易キ恐レアリ而メ針ハ紅彩ノ後ロニ隱ルヽヲ以テ意ニ應シテ是ヲ運轉シ難シ角

「ヒモリ」モ亦「アタムス」ノ如ク角膜ヲ開キ小鉤ニテ紅彩ノ内縁ヲ鉤出シ是ヲ創口ニ止住スルナリ

「ギュエリン」「デスマルレス」ハ「シカルペン」器名ヲ工夫セリ是ヲ以テ角膜ノ一小片ヲ截斷シ其斷口ヨリ紅彩ヲ脱下セシムルナリ若シ紅彩自ラ脱下セサレハ眼上ヲ軟壓シテ以テ其脱下ヲ促スヘシ其角膜ノ創痕紅彩ヲ搾住ス

論ニ曰ク此轉移法ハ手術易クシテ他術ノ如ク焮衝ヲ生出セス只紅彩瞳孔ノ無病ノ所ヲ

撰テ以テ此術ヲ行ヲ要ス。

眼科摘要巻之九　大尾

存誠林先生藏板

泰西醫方二十四脈表　枚摺

侍醫法眼信良坪井先生譯

侃斯達篤氏内科書　全一百八巻

侍醫法眼信良坪井先生譯

新藥百品考　初編二冊　二編二冊　全四冊

大博士佐藤舜海先生譯

斯篤魯黙児砲瘡論　全二冊

大博士佐藤舜海先生譯

外科醫法　内編十五冊　外編廿二冊　全三十七冊

越中佐渡三良先生著
和蘭藥性歌　全二冊

東京坪井芳洲先生譯
醫療新書　全三十冊

倉次元意先生譯
眼科摘要　全部九冊

時醫法眼松本先生藏板
解剖羅甸語加類多　骨部　近刻

西洋風画入
漢字和譯附
英語可留多　山内氏藏板

洞海林健卿譯補
窊篤兒藥性論　全部十八冊

侍醫々學教頭蘭疇松本良順誌
隱士　樂齋山内豊城挍閲補註
養生法　全三冊

玄端杉田先生譯
健全學　上中下　全部六冊

作樂戸痴鸞先生譯編
河津孫四郎先生校正
西洋英傑傳　全六冊

大學東校恒太郎石黒先生譯
賣藥鑑法　全一冊

大學東校衛平桼田先生譯補

袖珍藥說　全三冊

大學東校

官版御用所

西洋醫書

發兑書林　英蘭堂　嶋村屋利助

東京馬喰町二丁目